

日本原子力学会 シンポジウム
東京電力福島第一原子力発電所の廃炉
— 第4回：確実な廃炉のために今すべきこと —

日時：2019年3月9日(土) 13:30～17:00 予定 (受付：12:30～)

場所：機械振興会館 B2F 多目的ホール

東京都港区芝公園3丁目5-8

アクセス：<http://www.jspmi.or.jp/kaigishitsu/access.html>

主催：(一社)日本原子力学会・福島第一原子力発電所廃炉検討委員会

共催(予定)：福島復興・廃炉推進に貢献する学協会連絡会

協賛：日本地震工学会、日本機械学会、日本原子力研究開発機構

申し込み：事前登録制ですので、以下のウェブ受付ページにて登録ください。

<http://www.aesj.or.jp/symposium/>

参加費：無料

シンポジウムの趣旨

2011年3月11日に発生した東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故から8年が経とうとしています。福島の復興と福島第一の廃炉の作業は計画に従い、鋭意取り組まれているところであります。日本原子力学会は、廃炉の実施組織と積極的に意見交換を進めるとともに多くの学協会と協働して、復興と廃炉を支援すべく積極的に取り組んでいるところであります。

福島第一事故炉の廃炉作業は、2021年内には重要な汚染源である燃料デブリを格納容器の中からの取り出しに取り掛かる計画であり、2019年度内には工法を確定することとなっております。この活動は、世界でも初めての取り組みであり、様々な課題をもたらしています。福島第一原子力発電所廃炉検討委員会では、この廃炉作業での解決しなければならない重要な課題の解決に向けて、当学会の総力を挙げ、持てる技術力をすべて提供し、他の学協会とも連携して取り組んでまいりました。

当学会の役割の一つとして、また専門家集団として国民にこの問題を解説し、理解を得るとともに、解決策を提案して行く責務があると考えております。このシンポジウムは、社会の皆様方から広くご意見をいただく場として、定期的開催しています。社会と共に廃炉の進展を見守るとともに、長く継続して支援して行かなければならないと考えます。

今年で第4回目となる本シンポジウムでは、廃炉での「解決しなければならない課題」のいくつかについて、当委員会が定期的に行ってきたワークショップでの議論などから得られた成果をご紹介します。問題点を共有するとともに、幅広く課題解決に向けた取り組みを進めるために、皆様からのご意見をいただき、今後の支援活動、廃炉事業に役立てたいと考えるものです。

プログラム

座長 関村 直人 (廃炉検討委員会副委員長・東大)

開会の挨拶

駒野 康男 (日本原子力学会会長・MHI NS エンジニアリング)

講演 1 : 事故炉の廃炉の全工程とホールドポイント

宮野 廣 (廃炉検討委員会委員長・法政大)

講演 2 : 事故炉の安全確保と管理目標

山本 章夫 (WS 主査・名大)

講演 3 : 廃炉とサイト修復の最終の姿に向けた廃棄物の取り扱い

柳原 敏 (WS 主査・福井大)

休憩

講演 4 : 自然現象に対する事故炉の安全性評価

糸井 達哉 (WS 主査・東大)

講演 5 : 新技術への挑戦一国の補助事業による研究開発

松本昌昭 (廃炉・汚染水対策事業事務局・三菱総合研究所)

講演 6 : 国際協力への提案

岡本 孝司 (JAEA/CLADS 長・東大)

質疑対応

関村 直人 (廃炉検討委員会副委員長・東大)

閉会の挨拶

宮野 廣 (廃炉検討委員会委員長・法政大)

以上

連絡先 : 日本原子力学会事務局 (hairo@aesj.or.jp)